

mose, S. (1940) Journ. Jap. Bot. **16**: 358-370. Steil, W. N. (1911) Bot. Gaz. **42**: 400-401. ——— (1918) Bull. Torrey Bot. Club **45** 93-108. ——— (1919) Ann. Bot. **33**: 109-132. ——— (1933) Bot. Gaz. **64**: 164-167. Whittier, D. P. (1964) Amer. Fern Journ. **54**: 20-25. ——— (1965) Bot. Gaz. **126**: 275-281. Yamano-uchi, S. (1908) Bot. Gaz. **45**: 289-318.

* * * *

筆者は細胞学的に無配生殖をすることが知られているミサキカグマを用いて、その前葉体における無配生殖的な胚の起源とその初期発達の様子を調べた。胚の起源は、従来前葉体の cushion の内部の細胞や表面の 1 個の大きい細胞であろうと考えられていたが、この種では、cushion の表面の数個の細胞群から胚が発達することがわかった。また胚の形成に関して、胚が前葉体の腹面に発達する型 (V-型) のほかに、1 個の胚が前葉体の背腹両面にわたって発達する型 (DV-型) が知られた。この種の無配生殖的な胚では、最初に茎、次に葉、最後に根が発達した。他の種での無配生殖的な胚と同様に、足 (foot) は観察されなかった。

□百瀬静男：日本産シダの前葉体 B5, 627 ページ, 527 図, 1967 年 2 月 25 日発行, 東京大学出版会, 6,500 円。今までシダの図鑑はいろいろ出たが、シダの前葉体だけの図鑑というものは世界でこれが初めてといふ、変わった内容の本である。著者は 30 何年間の前葉体専門家で、すでに 1,000 種以上の前葉体を観察記載しており、昭和 12 年にイタチシダの前葉体を本誌に発表して以来、ほとんど本誌がその発表機関みたいになっているので、著者の前葉体の図は読者方におなじみのところである。この本にはそのうちの代表 75 属約 330 種類を選び、未発表のものも混ぜて分類順に並べてある。ほとんど毎ページにきれいな図があり、そして詳しい記載がある。スケッチのしかた、倍率、紙、墨入れのやりかたなど、最初から現在まで一貫して変えないといふ著者の原図から、同一倍率に製版してあるので、全形図も部分図も皆統一されている。それゆえ各種類を比較するのに大変うまいがよい。今後前葉体を研究する人や胞子体の分類や系統を論ずる人にとって、十分信頼できそして特別な意見などはされてないすこぶる公平な図であり記載であることはまことにありがたいことである。書名の英訳は Shizuo Momose: *Prothallia of the Japanese ferns (Filicales)* となっている。(伊藤 洋)

□野の花山の花 Colour Compact 集英社 変形版 19×18 cm 青山富士夫・亘理俊次両氏のとった植物のカラー写真を中心にして構成された写真集。色彩もよいし色々珍らしい姿もみられるので植物学にもよい参考になる。ホトケノザの花、オキナグサの花柱の毛の生態、アサマフウロの花、コウリンカの花、ウメバチソウの仮おしべ、ハマウツボの生態、エンビセンノウの花などはその一例である。¥480 は安い。(前川文夫)